

6 文や文章の中で使うようにさせる指導について (1年)

【板書事項】

文づくりゲームをしよう。

赤い花がさいている。

木のちかくで休む。

水をのむ。

人

中
白
日

山
川
本

口
目
犬

【指導の流れ】

- 1 「今日は、今までに習った漢字を使って、文作りゲームをしましょう。」
- 2 「漢字カードを黒板にはりますよ。一緒に読んでみましょう。」
- 3 「少し練習してみようね。」
 (『白』のカードを提示しながら)
 『白』を使って、文ができた人はいますか。」
- * 『白くまがいる』『白い帽子をかぶる』など、児童の考えをいくつか発表させ、文の作り方を確認する。
- 4 (『白』のカードを黒板に戻してから)
 「やり方は、分かりましたね。それでは、ゲームを始めましょう。カードは、一枚十点です。何枚のカードを使えるかな？グループで協力して、頑張りましょう。最初は、グループの挑戦です。制限時間は、三分。それでは、用意、始め。」
- 5 「時間です。止め。できた文をグループに読んでもらいましょう。どうぞ。」
- 6 「上手にできましたね。グループは、カードを八枚使ったので、八十点です。次は、グループの挑戦です。」

【留意点】

- 1 単元の終わりなどに、既習の漢字を使って習熟を図る。
- 2 漢字カードの裏に、マグネットシールをはり、児童が扱いやすいようにする。漢字カードは、一枚ずつ声に出して読みながら、読み方を確認する。
- 3 例文を示す時には、『白くま』だけでなく、『白くまがいる』というように、言葉作りではなく、文作りであることを意識させる。
- 4 制限時間やグループの人数は、学級の児童数によって調整する。
- 5 班全員で声をそろえて読むように指示する。
- 6 同様にして、全部のグループが終わったら、『今日のチャンピオン』を決める。
 順番の決め方は、『数字カード』を使ってくじ引きにするなど、工夫すると、より楽しくゲームが始められる。
 「うまいね。」「おもしろい文だね。」「これは最高にいい。」など、できた文をほめ、漢字を使って文を作るおもしろさを味わうことが出来るようにする。